ある天使の話。

福田 伶詩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある天使の話。

【Ｎコード】
Ｎ４４７６Ｂ

【作者名】
福田　伶詩

【あらすじ】
ある夜。音を立てて、少年が空から落ちた。少年に息はあるようだった。生きている。

プロローグ＊ＪＯＨＮ　ｓｉｄｅ（前書き）

ちょっとリアリティにグロイとこ有りでス。
苦手な方、シカトして下さい。

プロローグ＊ＪＯＨＮ　ｓｉｄｅ

ジョーン　ｓｉｄｅ

もうボロボロ。

立てるわけがない。

雲の切れ間から落ちるなんて間抜けな俺。

また王である父からの罰が下されるのだろうか。

それだけは、絶対に避けなければならない。

そういえば、物心ついた頃からよく罰を受けていた。

その罰は－－－－年をとらないまま、５年間牢獄で過ごす、木になって年のとらない部屋に１０年間居る、など様々。

父は、俺に年をとらせたくないのだろうか。

それらの罰のせいで、４５才になっても、俺の心も体もまだ１５才だ。

時に、直接的な暴行も受けていたりもした。

包丁をくわえさせられたり、足の指と指の間にナイフを挟まされた

り。

痛くても恐怖の方が大きくて、痛みを感じないので気持ちが悪くなった。

おかしいと思ってたんだ。

父は俺にだけ父としてしてはいけない事をする。

それでも俺は逃げようなんて思っちゃいなかった。

逃げれば雲の上だけでなく、丁度真下にある地球にまで、指名手配されるに違いないからだった。

父は、それだけの権力者なのだ。

それだけに、俺は本当に父が怖かった。

国の皆に慕われていようと、優しい王様だ、と言われていようと、俺にとっての父はただの恐怖だった。

いつ殺されるか分からない。

そんな恐怖。

ここがどこか分かんないけど

生きてたいよ。

今はGパン一丁。そんな格好で道に転がってるのは寒いし。

プロローグ＊藍果side

ラングォウside

両親はいない。
一人で生きている。

こんな話はどこにでも転がってる。
私の場合、ちょっと違うけど。

私の母さんは、私が小さな頃、若い男と結婚して、私を連れて父さんから逃げた。
若い男は私の義父となった。
そしてすぐに、母さんはヤクザに殺された。
そのとき義父は涙一つ流さなかった。
私は泣いた。３粒程涙を溢した。

その後私は義父とは暮らさず、色々な男の所を行き来した。義父は女に騙されて伝染された病気でこの間死んだ。
多額の借金を私に遺して。

金くらい返してから逝け、と思った。
死んでも泣いてくれる人がいないのは悲しいとも思った。
それ以外に義父に感情は抱かなかった。

しかし義父を材料に、可哀想な女を演じて、同情されれば金は貰える。

その金で借金を返して、父さんの家に帰って一緒に暮らすんだ。

父さんは私に剣術と剣舞を教えてくれた。

難しくて、楽しくて、どんどん夢中になっていった。

そして家を出る3日程前に、剣を私にくれたのだ。

［これは人を切る剣じゃない。剣舞のための剣だ。だからこの剣で、人を傷付けてはいけないよ。］

こう言って。

父さんは、きっと分かってたんだよね。母さんが私を連れて家を出ていく事を。

だから私は、今まで父さんに言われた事を守ってきた。

剣士として、剣舞士としても、例え格好はボロでも、心は誇り高くいるつもりだ。

例えどんな事があっても――――――

［ドサッ］

外で、何か落ちた音がした。

ｊｏｈｎ　ｓｉｄｅ

目が、覚めようとしている。
ぼんやりと視界が広がる。

［起きた？］

バッと、柔らかな布団から跳び起きた。

［起きました。］

一気に全部、思い出した。

昨日――――

まだ転がってた時の話
［もし。生きてる？］

転がってた所は、人んちの前だったみたいだ。
その家の住人らしき人の声がした。
その方向を一瞥すると、絶世の美少女が。

［お？生きてんじゃん。］

声は低いし言葉使いは悪いけど。

［。。。とりあえず大丈夫？
行くあては、ある？］

首を横に振った。

［じゃ、家においで。］

［。。。はい］

そして現在に至る――――

［っと、まずは自己紹介だね。］

そう言って、彼女は俺が喋るのを待っている。

［。。。ジョ-ン。］

［えッ？］

［Ｊｏｈｎ　Ｃｒｏｗｌｅｙ］

［ジョーン、か。
かっこいいじゃん。］

俺は目で、名前を促した。

［私は、黄　藍果。
ね、ジョ-ンの背中の、見せて？］

見られたんだ。やっぱり。
興味本意か。それとも研究か。
どっちだっていい。
俺には関係ないし。

［別に構いませんよ。］

そう言って、着ていたTシャツを脱ぐ。

［う、わぁ。。。ッ
羽根、銀色してる！！
綺麗。。。］

羽根が綺麗と言われたのは初めてだった。銀の羽根は、気味悪がられるばかりだったから。

だから、嬉しさと照れで泣きそうになった。

［もう、着てもいいですか？
寒い。。。］

俺が聞くと、［ごめんごめん］と言って服を手渡した。］

ｊｏｈｎ　ｓｉｄｅ

あれ？
Ｔシャツ、着てたッけ？

［あの、服ッ。。。］

［あ、それ？隣のお兄に借りてきた。哥哥-］

呼ばれて出てきたのは、飄々としたこれまた綺麗な男の人だった。

［。。。どうも。ジョ-ンです。］

［どうも。馬　斐禅です。
服のサイズ、合った？］

黙って頷いた。

［なら良かった。
お前無口な男拾ったな-。］

［拾ったとか失礼だな‐哥哥はッ
ごめんなジョ‐ン。］

［いえ、気にしないで下さい。］

［そう言えば、ジョ‐ンって名前って珍しいな。
瞳も緑色してる。
怪しいッて近所のヤツら、皆ウワサしてたよ。笑］

少し間をあけて、斐禅は重そうな口を開いた。

［俺も思うんだ。本当のとこ、お前、何者よ？
話せたら話してくんねぇかな？］

やっぱ、そうだよな。

斐禅も藍果も気になってるんだろうな。

でも俺は。。。

［言えません。］

［そっか。
俺仕事あるしじゃあな

気が向いたら喋ってくれや。］

そう言って、斐禅は隣の家に消えて行った。

随分あっさり諦めたな。。。

［。。。怪しい。
絶対哥哥なんか企んでるよ。
ジョーン、気ィ付けな。］

［はぁ。。。］

［事情はともかく、行くあてがないんだょな？
だったらしばらくの間ここにいて良いから。］

［。。。ッありがとうございます。
よろしくお願いします、藍果］

［こちらこそよろしく、ジョーン］

ｊｏｈｎ　ｓｉｄｅ（後書き）

解説

。＊。。＊。。＊。。＊。。＊。。＊。。＊。

哥哥ッていぅのぁ
藍果だけの斐禅の
呼び方でスｏ

分かりにくくて
すいませんッ；
もぅ皆さん
ぉ分かりだとは
思いますが、
設定は中国なのでスｏ
確か
［哥哥］というのぁ
［ぉ兄ちゃん］ッて
意味合いだッた
気がしたので、
出してみましたｏ

中国語、少し
勉強しょうかな。。。

そう思う
今日この頃ですｏ

福田でした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4476b/

ある天使の話。

2010年10月15日23時58分発行